



2023年4月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年1月12日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 2023年1月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年4月期第3四半期の連結業績(2022年3月1日～2022年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年4月期第3四半期	26,767	1.1	1,764	12.9	1,815	9.1	1,158	2.9
2022年2月期第3四半期	27,067		1,562		1,997		1,126	

(注)包括利益 2023年4月期第3四半期 1,139百万円 (3.0%) 2022年2月期第3四半期 1,107百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年4月期第3四半期	110.67	
2022年2月期第3四半期	107.64	

(注)当社は、2021年2月期第3四半期は非連結での業績を開示しておりましたので、2022年2月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年4月期第3四半期	20,239	15,944	78.8
2022年2月期	20,002	15,834	79.2

(参考)自己資本 2023年4月期第3四半期 15,944百万円 2022年2月期 15,834百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期		0.00		100.00	100.00
2023年4月期		0.00			
2023年4月期(予想)				80.00	80.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)2022年2月期 期末配当金の内訳 普通配当80円00銭 記念配当20円00銭(創業150周年記念配当)

3. 2023年4月期の連結業績予想(2022年3月1日～2023年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,100		3,500		3,500		2,100		200.61

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、2022年4月14日付「決算期(事業年度の末日)の変更及び定款の一部変更に関するお知らせ」の通り、決算期変更を発表しており、2022年5月20日開催の第54期定時株主総会において、事業年度を毎年5月1日から翌年4月30日までとする変更を決議しております。決算期変更の経過期間となる当期は2022年3月1日から2023年4月30日までの14ヵ月の変則決算となるため、対前期増減率は記載しておりません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年4月期3Q	12,446,700 株	2022年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2023年4月期3Q	1,972,691 株	2022年2月期	1,978,841 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年4月期3Q	10,472,159 株	2022年2月期3Q	10,467,859 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が未だ収まらず、2022年8月をピークとした第7波に続き、年末にかけての第8波が今も拡大しております。事態の収束にはまだまだ時間を要すると思われませんが、一方で「withコロナ」に向けた政策により行動制限も徐々に緩和されつつあり、経済活動は回復傾向にあります。しかしながら世界的な原材料・エネルギー価格の高騰による物価上昇により、消費マインドは鈍化し依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの属する食関連業界におきましても、原材料・エネルギー価格の高騰は大きな影響を与え、多くの食品において値上げを断行せざるを得ない状況となっており、厳しい状況は続くものと想定されます。

このような環境の中、当社グループでは、出店による売上拡大に加え、事業部連携により「精肉+惣菜」や「惣菜+和菓子」といった、より利便性の高い複合店舗を展開しました。またDXを活用した構造改革による業務の見直しや商品戦略による利益重視の経営を徹底いたしました。

出退店・改装につきましては、「名古屋栄三越精肉店」「柿安ダイニング そごう大宮店」等、8店の出店、3店の退店及び3店の改装を行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は26,767百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益は1,764百万円（同12.9%増）、経常利益は1,815百万円（同9.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,158百万円（同2.9%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、10月29日に「名古屋栄三越精肉店」を出店するとともに、既存店舗において惣菜売場を拡充する等、利便性の高い店舗展開を図りました。また、11月29日には、年に1度の「いい肉の日」を実施し、お値打ち商品を提供する等、魅力ある商品の提供に努めました。

出退店につきましては、1店の出店、1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は10,578百万円（前年同期比4.9%減）、セグメント利益は933百万円（同6.4%減）となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、人気シリーズの大人向け新味『大海老マヨ〜ゴルゴンゾーラ&はちみつ〜』、『ローストビーフ〜牛肉と舞茸のグレイビーソース〜』等、主菜商品の充実を図りました。また季節の副菜『ゴロゴロベーコンのおかず南瓜サラダ』を販売する等、味・見栄えともに魅力ある商品の開発に努めました。

出退店・改装につきましては、「柿安ダイニング そごう大宮店」等、3店の出店、3店の改装を行いました。

この結果、当事業の売上高は9,140百万円（前年同期比8.5%増）、セグメント利益は817百万円（同3.0%増）となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、前回ご好評いただいた一定期間何度でも商品をお値打ちに購入できる『口福パス』の第2弾を展開しました。また、秋冬限定の人気シリーズ『いちご大福』等のフルーツ大福に加え、テレビやYouTubeで国民的人気となっているキャラクターとコラボした『どら焼』を販売する等、販路拡大を図りました。

出退店につきましては、「口福堂 熊本駅店」等、4店の出店、1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は4,558百万円（前年同期比4.0%減）、セグメント利益は455百万円（同26.5%増）となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、グリル業態において、きのこ・さつまいも・南瓜等季節の食材を使った惣菜やパスタ、デザートを取り揃えた秋のサラダバーを展開しました。また、11月にはグランドメニューを刷新する等、お客様に喜んでいただける商品開発に努めました。

出退店につきましては、1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は1,156百万円（前年同期比16.8%減）、セグメント利益は1百万円（前年同期は181百万円のセグメント損失）となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、コンビニエンスストア向けに柿安監修商品として『ローストビーフ丼』や『牛すき鍋』等の具材提供を行いました。また、国民的人気アニメキャラクターとのコラボ商品として『牛鍋風 牛肉しぐれ煮』を敬老の日や孫の日に展開する等、新たな試みによる販路拡大を図りました。

この結果、当事業の売上高は1,334百万円（前年同期比3.1%減）、セグメント利益は213百万円（同22.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ236百万円増加し、20,239百万円となりました。

流動資産は124百万円増加し、13,690百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加717百万円、商品及び製品の増加211百万円及び仕掛品の増加140百万円と現金及び預金の減少927百万円等です。固定資産は111百万円増加し、6,548百万円となりました。主な要因は、工具、器具及び備品の増加76百万円、建物及び構築物の増加57百万円等です。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ126百万円増加し、4,294百万円となりました。

流動負債は117百万円増加し、3,829百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加588百万円、引当金の増加129百万円及び未払金の増加121百万円と未払法人税等の減少702百万円等です。

固定負債は9百万円増加し、464百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の増加8百万円等です。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ110百万円増加し、15,944百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益1,158百万円の計上による増加と剰余金の配当による減少1,046百万円等です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年7月12日に発表いたしました2023年4月期第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）に記載しております予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,551	9,623
受取手形及び売掛金	2,260	2,978
商品及び製品	293	505
仕掛品	190	331
原材料及び貯蔵品	114	223
その他	154	27
流動資産合計	13,565	13,690
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,046	2,103
土地	2,224	2,224
その他(純額)	528	609
有形固定資産合計	4,800	4,937
無形固定資産	226	183
投資その他の資産		
投資有価証券	111	117
繰延税金資産	250	262
差入保証金	620	627
退職給付に係る資産	250	232
その他	175	188
投資その他の資産合計	1,410	1,427
固定資産合計	6,436	6,548
資産合計	20,002	20,239
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,022	1,610
未払金	315	436
未払法人税等	909	206
未払費用	797	877
賞与引当金	335	481
役員賞与引当金	42	25
その他	291	191
流動負債合計	3,712	3,829
固定負債		
資産除去債務	387	396
その他	67	68
固定負債合計	455	464
負債合計	4,168	4,294
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,080
利益剰余金	16,958	17,070
自己株式	△3,542	△3,531
株主資本合計	15,759	15,888
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△24	△21
退職給付に係る調整累計額	99	77
その他の包括利益累計額合計	75	55
純資産合計	15,834	15,944
負債純資産合計	20,002	20,239

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
売上高	27,067	26,767
売上原価	13,035	12,442
売上総利益	14,032	14,325
販売費及び一般管理費	12,469	12,560
営業利益	1,562	1,764
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
受取給付金	409	30
その他	26	19
営業外収益合計	437	51
営業外費用		
その他	2	0
営業外費用合計	2	0
経常利益	1,997	1,815
特別利益		
投資有価証券売却益	1	—
特別利益合計	1	—
特別損失		
固定資産除売却損	34	6
減損損失	49	5
店舗閉鎖損失	55	0
その他	28	0
特別損失合計	168	13
税金等調整前四半期純利益	1,830	1,802
法人税、住民税及び事業税	605	645
法人税等調整額	98	△1
法人税等合計	703	643
四半期純利益	1,126	1,158
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,126	1,158

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
四半期純利益	1,126	1,158
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	3
退職給付に係る調整額	△23	△22
その他の包括利益合計	△19	△19
四半期包括利益	1,107	1,139
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,107	1,139

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、製品の国内販売において、出荷時から顧客への製品移転時までの期間が通常の間である場合は、出荷時点で収益を認識しております。

これにより、返品については、過去のデータ等に基づいて予想返品率を見積り、値引き及びリベートについては、実績が確定するまで契約等に基づいて将来の支払額を見積り算出する方法に変更しております。これに伴い、期末日時点で返品等が見込まれる対価を返金負債として計上し、返金負債の決済時に顧客から商品等を回収する権利について返品資産を計上しております。なお、返金負債については流動負債の「その他」に、返品資産については流動資産の「商品及び製品」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過措置に従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1百万円減少し、売上原価は0百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は0百万円減少しております。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過措置に従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過措置に従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	11,127	8,426	4,747	1,389	1,376	27,067	—	27,067	—	27,067
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,249	15	22	0	762	2,051	—	2,051	△2,051	—
計	12,376	8,441	4,770	1,390	2,139	29,119	—	29,119	△2,051	27,067
セグメント利益 又は損失(△)	996	793	359	△181	276	2,245	—	2,245	△682	1,562

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△682百万円には、各報告セグメントに配分していない全社
費用△712百万円及びその他調整額29百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメン
トに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」、「和菓子事業」、「レストラン事業」において、店舗設備に伴う減損損失をそれぞれ
27百万円、11百万円、11百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、49百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
顧客との契約か ら生じる収益	10,578	9,140	4,558	1,156	1,334	26,767	—	26,767	—	26,767
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	10,578	9,140	4,558	1,156	1,334	26,767	—	26,767	—	26,767
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,473	9	22	2	808	2,316	—	2,316	△2,316	—
計	12,051	9,149	4,581	1,158	2,142	29,084	—	29,084	△2,316	26,767
セグメント利益	933	817	455	1	213	2,420	—	2,420	△655	1,764

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益の調整額△655百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△684百
万円及びその他調整額29百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属し
ない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「和菓子事業」、「惣菜事業」において、店舗設備に伴う減損損失をそれぞれ3百万円、2百万円計上
しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、5百万円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、
収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に改
変しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「食品事業」の売上高は1百万円
減少、セグメント利益は1百万円減少しております。